

笑顔のサツマイモ収穫

愛知県東三河農林水産事務所
田原農業改良普及課 普及指導員

小竹 博之

いもほり交流会

愛知県田原市の4Hクラブは地域貢献活動の一環として、地元保育園の園児らと「いもほり交流会」を行っており、園児らが心待ちにする行事の一つとなっている。

サツマイモ苗の植え付けは6月に行う。クラブ員は園児らを前に、創作したキャラクターの紙芝居や実演で植え方を分かりやすく伝え、一生懸命苗を植える園児らの手伝いをする。植え付け後の草とり等の管理は保育士と一緒に園児が行い、クラブ員は見回りによって生育状況を確認する。

10月に入ると「いもほり交流会」を行う。園児らは大きく育ったサツマイモを夢中で掘り起こし、誇らしげに掲げる。園児から満面の笑みがこぼれた瞬間、クラブ員はこ

の活動の意義を感じる（写真1）。

いもほり交流会開催の経緯

平成7年に渥美町（当時）の福江4Hクラブから「いもほり交流会」が始まった。当時のクラブ員は、地域との繋がりや殆どなく、4Hクラブの主な活動である研修会、プロジェクト活動、視察だけでは閉塞感を感じていた。クラブ員は地域の活性化に貢献できる‘何か’を模索していた。そこで閃いたのが、園児らとのいもほりであった。当時、愛知県農業総合試験場がサツマイモの品種を維持・管理しており、いも苗が無償で入手できることが決め手となった。

農業改良普及員の支援のもと、4Hクラブは福江保育園と協議を重ね、いも苗はクラブ員が所有するほ場に植え付けることにし、交流会を行う運びとなった。初年度はクラブ員も試行錯誤のなか準備や管理、進行を行った。

それから数年は1つの保育園で行われていた行事であったが、活動の輪が広がり、平成12年度に中山4Hクラブが、平成14年度に伊良湖岬4Hクラブが加わり、平成15年からは現在の形態と同じく、6つの保育園で交流会が行われるようになった。ほ場は、事業に賛同する地元の農業者のほ場を無償で借り受けられ



写真1 笑顔のサツマイモ収穫

た。

現在では、いもほりをきっかけに4 Hクラブと園児らは交流を持ち、クラブ員が保育園に行くと、「4 Hクラブのお兄さん」と慕ってくれる。交流会は、4 Hクラブにとっても地域貢献という意味合い以上の重要な活動となっている。

4 Hクラブ活動

4 Hクラブは、20歳代を中心とした青年農業者で構成されており、農業および農家生活に関する技術知識の体得と共に地域農業および農業生活の改善を目的とした自主的な集団的実践活動をする組織である。

4 Hとは、①農業の改良や生活の改善に役立つ腕（Hands）を磨く、②科学的にもの考えることのできる頭（Head）を訓練する、③誠実で友情に富む心（Heart）をつちかう、④楽しく元気に仕事ができるように心と身体健康（Health）を増進する、の4つの頭文字である。

田原農業改良普及課は、次代の農業を担う意欲と能力を備えた青年を育成するために、その組織活動を支援している。田原市

には、田原、赤羽根、福江・泉、中山、伊良湖岬の5つの4 Hクラブがあり（図1）、平成24年度は46名が活動している。

いもほり交流会の位置づけ

4 Hクラブの主な活動は、①県内・県外の農業先進地や市場などを訪問・調査し、経営に役立たせる『視察』、②異業種交流会など幅広い内容で、知識・技術の向上を図る『研修会』、③自身で目標を定め、その目標を達成するための計画、実行、その結果に対する反省・評価を行い、問題解決能力を身に着ける『プロジェクト活動』、④いもほり交流会による『地域貢献活動』である。

その存在・活動が地域住民に伝わりづらい4 Hクラブにとって、「いもほり交流会」は外部にアピールする良い手段でもある。また、クラブ員にとっても、事前の準備や当日の進行、経過の管理、収穫の達成感や反省を通し、資質向上を促す一面もある。交流会をプロジェクト活動として取り組んでいるクラブ員もおり、地域貢献活動とクラブ員の成長が密接に関わっている。

おわりに

14年前に始まった「いもほり交流会」は、今では4 Hクラブにとってなくてはならない地域貢献活動となり、新聞やテレビでも取り上げられている。「いもほり交流会」を行っている保育園の保育士は、園児らが給食を残さず食べる、農業を身近に感じている等、食育に繋がっていると語る。

田原農業改良普及課は、クラブ員・地域社会の双方に価値のあるこの活動に対してこれからも支援を続けていく。さらには他の地域にもこの活動が広がるよう推進していく。

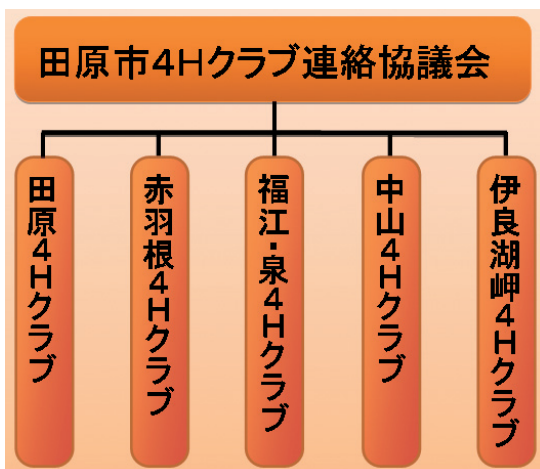


図1 田原市4 Hクラブの組織図